

第6学年国語科学習指導案

日 時 平成20年10月17日(金) 授業I
児 童 男子13名 女子9名 計22名
授業者 小笠原 恵

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
教材名 「平和のとりでを築く」

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまで、5年上「サクラソウとトラマルハナバチ」で、筆者の主張に興味をもって読みながら、自分の意見を持ち、グループや学級で話し合うという学習をした。また、同じく5年上「千年の釘にいとむ」では、ドキュメンタリーを読み、叙述に沿って職人の工夫や思いを読み取り、それらに対する自分の感想をまとめるという学習をした。さらに、6年上「生き物はつながりの中に」では、文章の構成や表現から要旨をとらえ、筆者の考えとそれに対して抱いた自分の考えを文章にするという学習をした。これらの学習を通して、児童は、「問題提起」→「問題の解明」→「まとめ」という、説明文の基本的な文章の構成を理解し、問いの文やそれに対する答え、指示語や接続語に着目しながら段落の内容を的確に押さえることができるようになってきている。しかし、文章構成や語句の使い方、文末などの表現を手がかりに筆者の主張の軽重や表現の工夫について気をつけながら読むことは、まだできていない。また、筆者の考えをつかむことまではできても、それを自分自身へのメッセージとして受け止めながら、自分の考えをもつことができる児童は、多いとは言えない。

音読については、家庭学習で毎日取り組んでいる。初見の文章でもあまりひっかからずに読むことができる児童がいる一方で、何度もくりかえして練習しなければすらすらと読むことのできない児童もあり、個人差がある。

(2) 教材について

本教材は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。文章は、全体で13の段落から成っており、Ⅰ「原爆ドームに対する語り手「わたし」の思い」、Ⅱ「原爆ドームがたどった歴史」、Ⅲ「世界遺産への道のり」、Ⅳ「まとめ」という4つのまとまりで構成されている。日本人としてぜひ知っておきたい史実と、それが“世界”の“遺産”となった意味についての筆者の考えが示されている。時を表す言葉や指示語が指し示している言葉に着目することにより、事実を正確にとらえることができるとともに、文末表現の違いや「原爆ドーム」に対する叙述の変化から、筆者が訴えたいことを読み取ることができる教材である。また、本教材の内容を読み取っていくことにより、いかに多くの人々が、現在において「平和」を希求しているかが分かり、続く活動への動機を与えることにもつながる。

日本が過去に経験した戦争、甚大な被害を受けた原子爆弾のこと、あるいは現に今も戦争で苦しんでいる同世代の子どもたちがいることなどは、ほとんど考えたこともない、という児童も多いと考えられる。未来を担う一員である6年生の児童に、これからの社会のあり方は自分たち自身の問題でもあるという視点から、「平和」についても深く考えることができる教材である。

(3) 指導にあたって

本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」から構成されている。「平和のとりでを築く」を読み取るとともに、「平和」というテーマにかかわる多様な材料を集め、自分なりの考えをもち、発信していくという学習を展開する。

「戦争」や「平和」ということに関しては、あまり考えたことがないという児童が多いと考えられる。本単元の学習に入る前に学習内容を知らせ、「戦争」や「平和」に関するニュース番組を視聴したり新聞を読んだりして、「戦争」や「平和」についての興味・関心を高めておくようにしたい。また、世界遺産に関しても、言葉は聞いたことがあっても、具体的にはどのようなものなのかが分からない児童がほとんどである。ビデオや写真等を用いながら、世界遺産への知識を高めておくようにしたい。

筆者の伝えたいことを考えるうえで、文章構成をとらえておくことは重要である。「平和のとりでを築く」を読み取っていく際には、文章全体をまとまりに分けさせることによって、「筆者の思い」「原爆ドームがたどった歴史」「世界遺産への道のり」「まとめ」という文章構成になっていることをしっかりおさえたうえで、各段落の読み取りをしていくようにしたい。また、筆者が、「それを見る人」を、「一少女」→「市民」→「全国」→「世界の人々」への広がりとしてとらえていることや、原爆ドームについての叙述が、「建造物」→「世界遺産」→「記念碑」→「世界の遺産」というように変化していること、さらに文末表現などに着目させながら、読み取っていくようにしたい。

3 指導目標

【関心・意欲・態度】

- 筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。

【書くこと】

- ◎ 「仮の要旨」から「確定した要旨」への過程で必要な材料を選び直すことができる。(書くこと イ)
- ◎ 自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考えることができる。
(書くこと ウ)
- ◎ 事実と意見を区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりすることができる。
(書くこと エ)

【読むこと】

- 「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読むことができる。
(読むこと イ)
- ◎ 筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかをまとめることができる。(読むこと エ)

【言語事項】

- 文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考えることができる。(言語 オ(ア))

4 単元指導計画（全14時間）

段階	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準	
つかむ	1	難語句や新出漢字の読み方を確認して全文を読み、おおまかな内容をつかむ。 戦争や平和について、知っていることを発表し合う。 学習の見通しをもつ。	難語句や歴史的な背景については補説するようにする。 戦争や平和についての興味・関心を高める。	学習への意欲をもち、文章の内容をおおまかにつかんでいる。 知っていることを進んで発表している。	
	2	1	全文を4つのまとまりに分けて見出しをつけ、文章全体の構成をつかむ。	文末表現等に注目させ、事象と筆者の感想・意見をおさえながら、文章構成をつかませる。	4つのまとまりに分けて見出しをつけ、文章全体の構成をつかんでいる。
ふかめる	6	1	題名と形式段落① 筆者は何を伝えたいのだろうかという読みの課題を共通確認する。	題名にある「とりで」という言葉や、筆者が語り手「わたし」として語っていることに注目させ、読みの課題へとつなげていきたい。	文章全体の読みの課題をとらえている。
		1	形式段落②～⑤ 人々に親しまれていた「物産陳列館」が傷だらけの建物となった経緯を読み取る。	時を表す言葉を手がかりに、事実を正確にとらえて整理するとともに、原爆前と原爆後の建物や街の様子の変化をしっかりと読み取らせたい。	人々に親しまれていた「物産陳列館」が原爆によって傷だらけの「原爆ドーム」となった経緯を読み取っている。
		1	形式段落⑥～⑧ 原爆ドーム保存に至る経緯と、人々の思いを読み取る。	保存反対論もあった中で、市民も役所も「永久保存」へと立ち上がるきっかけとなった、少女の日記の内容について十分考えさせたい。	原爆ドーム保存に至るまでの経緯と、少女の日記の内容に共感した全国の人々の思いを読み取っている。
	1	形式段落⑨～⑪ 原爆ドームが世界遺産として世界の人々に認められたのはなぜかを読み取る。	原爆ドームを世界遺産にしようという動きが全国に広がっていったのは、人々のどんな思いからだったのかを考えさせるとともに、筆者が抱いた不安を理解しやすくするために、他の世界遺産と原爆ドームの規模や歴史について比較するようにする。	原爆ドームを世界遺産として認めたことにはうかがえる世界の人々の思いを読み取っている。	
	1	本時			

	1	形式段落⑫～⑬ 筆者の伝えたいことを読み 確かめ、書きまとめる。	⑬段落で筆者が「世界遺 産」ではなく「世界の遺産」 と表現していることの意味 を考えさせたい。	根拠を明らかにし て、筆者の伝えたいこ とについて書きまと めている。
	1	筆者の伝えたいことについ て書きまとめたものをもとに 話し合い、それに対する自分の 考えを書く。	前時までに読み取ったこ とを振り返り、筆者の伝えた いことに対する考えをまと めるようにする。	自分の感じ方・考え 方を明確にして、筆者 の伝えたいことに対 する自分の考えを書 きまとめている。
ま と め る 6	1	筆者の伝えたいことをもと に「平和」について考え、発信 する目的や相手、課題、方法を 決める。	課題はできるだけ具体的 なものとするように助言し、 一人一人が情報を集め、考え をまとめていけるようにす る。	「平和のとりでを 築く」で読み取ったこ とをもとに、「平和」 について自分の課題 をもっている。
	2	自分の意見に説得力をもた せるための材料を集め、文章の 構成を考える。	まとめごとに見出しを つけ、そのつながりを考えさ せることによって効果的な 組み立てを考えることがで きるようにする。	自分の意見に説得 力をもたせるために 必要な材料を集め、必 要なものを選択して、 自分の意見が伝わる ように構成を考えて いる。
	2	自分の考えを書きまとめ、推 敲する。	文末表現に気をつけさせ るとともに、「推敲のポイント」 を提示し、ポイントにそ って確認していくようにす る。	具体的事例と意見、 反対意見とそれに対 する反論などを、読み 手に分かるように書 き分けている。
	1	「平和」に関する自分の考え を発信する。	お互いに交流し、助言し合 えるようにする。	友達の考えに対し、 自分の考えをもっ ている。

5 本時の指導

(1) 目標

戦争の被害を強調し、規模も小さく歴史も浅い遺跡である原爆ドームが、世界遺産として認められたのはなぜかを読み取ることができる。

(2) 授業の視点

- ・ 原爆ドームの規模の小ささや歴史の浅さを理解しやすくするために、すでに世界遺産に指定されている遺跡等と比較する。
- ・ 原爆ドームが世界遺産の候補として世界の国々の審査を受けることになったとき、筆者がなぜ不安を覚えたのかをおさえ、そのうえで原爆ドームを世界遺産として認めた世界の人々の強い思いを考えさせる。

(3) 展開

段階	学習活動	教師の働きかけ（・） 児童の反応（→）	指導上の留意点
つかむ 5分	<p>1. 前時の学習を想起する。</p> <p>2. 学習課題を把握する。</p>	<p>・原爆ドーム保存のきっかけとなった少女の日記には、何と書いてありましたか。 →あの痛々しい産業奨励館だけが、いつまでも、おそろべき原爆のことを後世にうったえかけてくれるだろうー。</p> <p>・十代で死をむかえた少女は、どんな思いでしたか。 →悔しい →原爆さえなければもっと生きられたのに</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>原爆ドームが世界遺産として世界の人々に認められたのはなぜだろう。</p> </div>	<p>・前時は、⑥～⑧段落を読み取り、保存のきっかけとなったのは一少女の日記がきっかけであったことを想起させる。</p> <p>・前時に想像した少女の思いを何人かに発表させ、十代で死をむかえた少女の無念さや悔しさが人々に伝わったことにより原爆ドーム保存の動きが市民や役所、全国へと広がっていったことをおさえる。</p>
ふかめる	<p>3. 学習場面を音読する。</p> <p>4. 各段落を詳しく読み取る。 （1）原爆ドームを世界遺産にしようという動きが高まった理由を読み取る。</p>	<p>・次のことを考えながら音読を聞きましょう。 ①日本で保存することが決まった原爆ドームを、なぜ国民は世界遺産にしようとしたのか。 ②原爆ドームが世界遺産の候補として審査を受けるとき、筆者は何を思ったのか。</p> <p>・4年間もの間、原爆ドームを世界遺産にしようという動きが続きました。原爆ドームを世界遺産にしたかったのはなぜですか。 →原爆のおそろしさを世界の人にも知ってほしいから。 →日本で起きたことは世界で起きてほしくないから。 →日本だけで気をつけても、世界のどこかでまた原爆が使われるかもしれないから。 →もう二度と戦争が起こってほしくないから。</p>	<p>・指名読みをする。</p> <p>・詳しい読み取りの際に児童が考えやすいように、視点を与えるようにする。</p> <p>・全国の人々が、原爆ドームを世界遺産にしようとしたのはなぜかを考えさせ、人々の思いを読み取っていくようにする。</p>

ふかめる	<p>(2) 世界遺産について読み取る。</p> <p>(3) 原爆ドームが世界遺産に指定されるまでの筆者の思いと世界の人々の思いを読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 世界遺産とはどのような制度ですか。 <ul style="list-style-type: none"> → 人間の歴史に大きな役割を果たした文化遺産と、地球上にある貴重な自然遺産を、未来へ向けて大切に守っていくために、ユネスコと世界の国々が調査し、指定していく制度である。 • 教科書にのっている世界遺産の例を发表しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> → エジプトのピラミッド → ギリシャのオリンピア遺跡 → 姫路城や屋久島 • 原爆ドームが世界遺産の候補として世界の国々の審査を受けることになったとき、筆者はなぜ不安を覚えたのですか。その理由が書かれているところにサイドラインを引きましょう。 <ul style="list-style-type: none"> → 原爆ドームが、戦争の被害を強調する遺跡であること、そして規模が小さいうえ、歴史も浅い遺跡であることから、果たして世界の国々によって認められるだろうかと思ったから。 • 3つの理由について、すでに世界遺産に登録されているものと原爆ドームを比べてみましょう。 • 原爆ドームが他の世界遺産に負けないよさとは何でしょう。 <ul style="list-style-type: none"> → 規模が小さく歴史が浅くても、平和の大切さを伝えている。 → 原爆ドームを見ると、戦争を知らなくても原爆の恐ろしさが分かる。 → 見る人に戦争の恐ろしさを強烈に印象づける迫力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 文化遺産か自然遺産かを確認しながら、写真を貼っていくようにする。 • 児童が知っている世界遺産についても挙げさせる。 • 原爆ドームの規模や歴史を確認し、すでに世界遺産に登録されているものと比較するようにする。 • すでに世界遺産に指定されている遺跡等と比べ、規模が小さく歴史も浅い原爆ドームを、世界遺産として認めたことにかがえる世界の人々の思いを考えさせたい。
------	---	---	--

33分		→戦争をいましめるための建物は世界でこれしかない。 →原爆ドームだけが原爆のおそろしさを伝えてくれる。	
まとめる 7分	5. 学習のまとめをする。 6. 次時の予告をする。	<ul style="list-style-type: none"> 戦争の被害を強調し、規模が小さく歴史も浅い原爆ドームが、世界遺産として世界の人々に認められたのはなぜでしょう。 まとめ例 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 原爆ドームは、規模や歴史では他の世界遺産にはかなわないが、もう二度と戦争をしてはいけない、平和が大切だということを伝えることができるたった一つの建物だから、世界遺産として認められた。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> まとめが書けない児童には、世界の人々の思いを再度確認し、まとめに生かすよう助言する。 まとめを何人かに発表させる。

具体の評価規準

A 十分満足	B おおむね満足	C 努力を要する児童への支援
原爆ドームを世界遺産として認めたことうかがえる世界の人々の思いを、読み取ったことを生かしてまとめている。	原爆ドームを世界遺産として認めたことうかがえる世界の人々の思いを、本文の言葉を使ってまとめている。	世界の人々の思いに着目させ、考えさせる。

(4) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>原爆ドームは、規模や歴史では他の世界遺産にはかなわないが、もう一度と戦争をしてはいけない、平和が大切だということを伝えることができるたった一つの建物だから世界遺産として認められた。</p> </div>	<p>世界の人々</p> <ul style="list-style-type: none"> 平和の大切さを伝えている 見ただけで原爆の恐ろしさが分かる 戦争の恐ろしさを強烈に印象つける迫力がある <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>①</p> <input type="checkbox"/> </div> <div style="text-align: center;"> <p>⑩</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div> <p>文化遺産</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>自然遺産</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> </div> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 原爆ドームが世界遺産として、世界の人々に認められたのはなぜだろう。</p> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">平和のとりでを築く</p> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">大牟田 稔</p>
---	---	---